

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500057		
法人名	株式会社鈴木総合サービス		
事業所名	グループホーム平里の家(さくらユニット)		
所在地	山越郡長万部町字平里43番地23		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.keigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosyoCd=0191500057-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成25年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の尊厳、プライバシーを守りその人らしい生活が実現され、そしてその人に寄り添い一緒に楽しい一日が送れるようなお世話が出来る信じて、職員一人ひとりが同じ目標に沿った思いを持ち、活動レクリエーション等に活かせる人材になる様に頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR函館線と室蘭線の分岐点として、交通の重要拠点としての役割を果たしている長万部町の自然豊かな郊外に立地している。運営者は高齢化が加速する中で「認知症高齢者が地域の中で少人数で自分らしく暮らせる支援」を目的とし、地域のニーズに合わせて6年前に開設した。2年前に就任した管理者は豊富な経験を活かし、利用者の個別ケアや職員の育成に努め、職員は利用者の尊厳を守り、安心と安全で穏やかな生活を支援している。感染症対策として、トイレや手すりなどの消毒を毎日行っている。お盆に実施する夏祭りには帰省した家族も大勢参加し、利用者にとって心待ちにしている行事である。クリスマス会では職員が「赤ずきんちゃん」を寸劇で披露して、利用者の爆笑をさそった。職員はいつも笑顔で挨拶を欠かさない。利用者は編み物や塗り絵、折り紙など好きなこと、得意なことをしながら、安心して思い思いの場所で毎日を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に提示し職員に周知している。又、理念に沿った行動をとれるよう努めている。	管理者と職員は、地域密着型サービスの意義を理解し利用者の尊厳を守り、安全と安心の生活を基本とした理念を共有し、実践に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々へ行事を案内し参加をして頂いており、又民謡の慰問等にも来ていただいたり交流を深めている。	運営者は町内会の新年会や敬老会に参加している。近所の農家からスイカや野菜が届けられ、事業所のお祭り、クリスマス会には地域の方々の参加があり、民謡とバンドのボランティアの訪問など地域と相互の交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には運営推進会議を通じて理解や意見を頂き、支援の方法を深めていくように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行い出席者から意見や、要望を頂き、サービス向上に努めている。	家族・町内会・町職員・町保健師・民生委員・町議員が参加して、2ヶ月ごとに開催している。事業所の運営状況や外部評価結果の報告と質疑応答をして、結果を家族全員に通知するなどして、サービスの向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場福祉課の職員や地域住民に事業所の取り組みを伝え、日頃より連絡を密にし、関係作りをしている。	管理者は、運営推進会議を通じて、又は直接出向いて町担当者と常に情報交換を行い、介護保険関係や事故報告書のアドバイスを受けるなど、良好な協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに沿って内部研修を行い、職員全員が把握している。	職員は身体拘束に関する外部研修会に参加し、内部勉強会で拘束による弊害を学び、利用者の安全確保のために職員間で協力しあうなど、拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に積極的に参加し、その都度内部研修を行い職員全員に周知し、虐待防止に努めている。			

グループホーム平里の家（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が、制度を理解出来る様に常に内部研修を行い、権利擁護についての資料をいつでも見れるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族との面談、施設見学を行い又、契約時には十分に説明して納得して頂いている。入居料の改訂時には事前に文書にて説明し理解していただいております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際に意見や要望が無いかを聴き、要望があれば出来る事と出来ない事を説明し納得してもらい、出来る限りの対応するように努めています。	来訪時、特にお盆に開催する夏祭りには帰省する家族の参加者も多く、看取りの相談、金銭のことなど意見や要望を聴取する機会をつくり、表出された課題を反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議や全体会議で意見や提案を聴き、運営に反映されるようにされている。	ユニット会議の中で、職員からの意見や要望が寄せられ、出された提案や意見は全体会議で検討し事業運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面では資格、能力給となっており各自が向上心がもてる様に整備している。又入居者様の生活の質を良くするため心を持って働ける環境を作るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を行い職員のスキルアップに努め、外部研修にも積極的に参加する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	道南グループホーム協議会を通じ情報交換、施設見学、研修等でサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された日にご家族とご本人から要望や不安に思っている事を聞き、それをサービスに活かせる様環境を作り安心して過ごして頂ける様に努めます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より困っている事、不安な事、要望を聞き職員間で情報を共有しご家族の想いや望んでいる事の実現に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の要望を聞き、本人の心身の状態の把握、今この方に何が必要なかの汲み取り、可能な支援が出来る様に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の得意な事や出来る事を一緒にに行い、教えて頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の様子を伝えたり、定期的に広報誌や写真を送っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所などに積極的に外出できるよう、ご家族の支援を得ながら取り組んでいる。又友人やご家族の面会を積極的に受け入れ支援をしている。	冬は来訪者は少ないが、夏には友人・知人・縁戚の方々が訪れている。職員は、手紙や写真の送付を望む利用者のために宛名を代筆したり、以前住んでいた家を探しに出かけるなどなじみの関係継続を支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの会話やリクリエーション等を通じて入居者同士で関わりを持てる支援をしている。入居者様の中には個々に居室を歩き来し交流をしている方もおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人と家族の経過をフォローし、相談にのっている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日頃の状態を観て、希望や意向を汲み取れるように職員全員で取り組んでいる。又入居者様が自分の想いを伝えやすい環境を作っている。	職員は日々、会話の中から思いや要望を聞きだすことを大切にしており、本人の立場に立ち自己決定を尊重し、困難な時には動作や仕草を観察し支援をしている。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や各関係機関などから情報を得ている。又ご本人との会話の中からもこれまでの生活環境を把握できるように努めている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態を常に観察し、新たな情報や変化があった場合には記録を詳しく残し職員全員で共有している。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の状態を観察しご本人の必要なニーズを見つけ、ご本人やご家族と話し合い介護計画を作成している。	本人のかかりつけ医から診療情報を入手し、本人・家族の要望を取り入れ、モニタリングで新たな課題の有無を検討し、担当者会議で協議を重ねて現状に合った介護計画を作成している。				
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の最後にケアプランに沿って行っていたものを評価して記録に残し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化してはいないが、その人に合った柔軟な支援をいつでも行える用意はしている。					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の方々に理解して頂けるように情報を提供し、入居者様と地域の方々が関わり合いを持てるような環境作りをしている。					
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を伺い、町内医療機関か又は専門医療との連携を図り、受診、往診等を決めている。	利用者は従来のかかりつけ医に受診している。緊急入院を機会に家族の意向で町立病院に移行するケースがあった。専門的な治療は看護職員と検討の上、家族が同行受診をしている。				

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の状態把握を行い早期発見に努め、その都度看護師に報告し適切な医療につなげている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携に努め、出来るだけ早期に退院できるように定期的に面会に行き状態把握に努めている。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルケアについては入所時に説明してご家族と充分話し合いをし理解してもらい出来る限りの支援を行う。	入居時に重度化に伴い、事業所として出来ることを家族に説明しているが、より良く理解できるように書式の変更を踏まえて検討中である。	重度化時と看取りにおける事業所としての方針を分かり易く明確にして書式化し、職員間で共有するとともに、これをもとに家族に説明を行い、同意を得ることを期待する。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行いマニュアルを再度確認し、実践力を身に付ける様に努めている。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。	年2回、日中と夜間想定を含んだ火災、避難訓練を消防署の協力で実施し、終了後に評価を受け、反省点を真摯に受け止めて改善に取り組んでいる。	近隣に住宅はまばらで、町内会との協力体制を構築することは難しいかも知見受けられるが、まずは運営推進会議を通じて避難訓練に住民の参加を促すところから第一歩を踏み出すことを期待したい。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの人格を尊重しプライドを傷つけない様に、状況に対応した言葉がけの接し方で対応している。又会話も丁寧かつ親近感のある言葉かけを出来る様に努めている。	利用者の人格を尊重しプライドを傷つけないように、言葉遣いや声かけを、特に排泄時や入浴時に配慮し、一人ひとりに合わせた支援に取り組んでいる。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人ひとりに応じた声掛けを行い、思いやりや希望を伺い自己決定出来るような対応を心がけている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床時間等、その日の気分や体調に配慮し柔軟な対応が出来る様に心がけている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元的美容室は来所してカットしてもらい、又要望に応じて髪染などを行っている。					

グループホーム平里の家（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様とスタッフが一緒に昼食を食べ、楽しく食事が出来る様な雰囲気作りをしている。又畑で収穫した野菜を取り入れた食事を楽しむ事もあります。	栄養士と調理師、パティシエの有資格者の職員が食事を担当し、家庭菜園で収穫した新鮮な野菜を食材にし色彩豊かな盛り付けに工夫している。行事食はレストラン並みで、ケーキも利用者と一緒に手作りするなど美味しく楽しい食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握をし栄養士と情報を共有し、一人ひとりの状態や体調に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前・後に口腔ケアをし、又毎食前の嚥下体操も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それぞれに応じた声掛けをするようにしている。又必要に応じてトイレ誘導をしている。	車椅子で充分対応できる広さのトイレを使用することで、消毒剤で拭いて感染予防に配慮している。職員は排泄パターンを把握し適時に声かけてトイレ誘導している。水分摂取と肛門括約筋体操を取り入れ、排泄の自立に取組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに食物繊維が多く多く含まれる食材を取り入れたり、体操で体を動かす事で便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やその日の体調の合わせて、柔軟な対応で支援している。	午前中の中入浴を希望する利用者が多く、リフト付き個浴で週2回を目安に入浴している。冬期間以外は大浴場を使用し、気のあった利用者が入浴している。失禁時はシャワーや清拭で柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握しながら、良い睡眠ができるよう日中の活動が充実するような支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容をいつでも確認できるように処方箋を個別にファイルしており、状態や変化があれば随時看護師に報告し対応出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や、ぬり絵など本人の好きな事や得意な事を継続的にしてもらえよう支援している。		

グループホーム平里の家（さくらユニット）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出かけており、桜の時期には何回かに分かれてお花見に行きます。又外出をしたい方には一緒にでかけます。	在宅当時から散歩が習慣となっている利用者や買物・ウッドデッキでの外気浴、家庭菜園で野菜の生育を楽しみに畑へ、町の花である「あやめ」が咲く頃には「あやめ公園」など日常的に外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族からお小遣いを事務所で預かり、必要に応じて渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知人、からの電話やご本人が家族に電話の希望があればお話が出来るよう支援します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり	季節を感じてもらうのに季節ごとの飾り付け等を行い、室温にも気を配りながら、心地よく快適に過ごせる様に工夫します。	平屋造りの中央が玄関で、両サイドに各ユニットがある事業所内は、広くてゆったりとした空間に大きな千羽鶴が飾られ、折り紙で作ったチューリップが春の訪れを告げ、流し台とガス台がある台所は危険防止のためアコーディオンカーテンで目隠しされ、家具の配置も家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、各自趣味を行える環境を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な範囲で使い慣れた家具や馴染みの物等を持ち込み使用してもらっています。また配置や使いやすさや安全に配慮しながら居心地よい空間作りをしています。	居室はベットが備え付けてあり、在宅当時のタンスやテレビなどが持ち込まれ、家族の写真や孫からのプレゼントのぬいぐるみと造花が飾られている。家族が模様替えをするなど、居心地の良さに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況を把握しその人が出来る物を活かせるような環境作りに努め安全な生活が送れるように支援しています。		